

# 家 庭

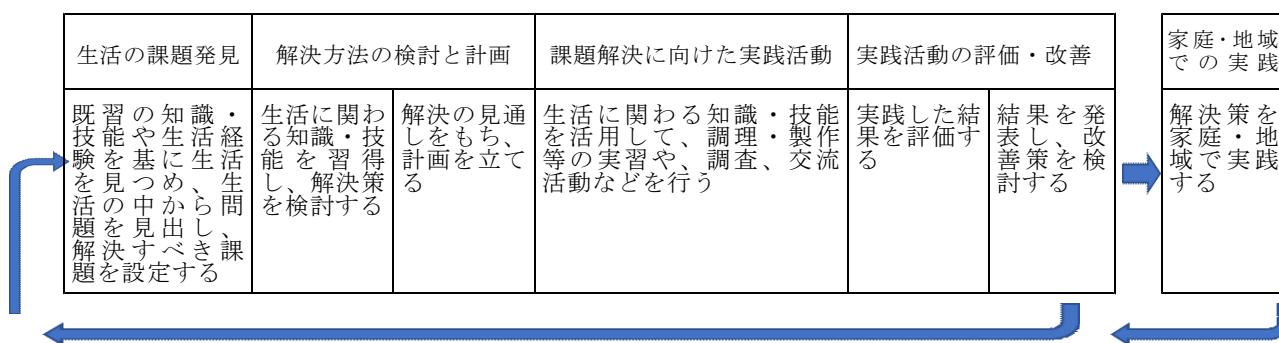
## 1 学習指導の工夫・改善

### (1) 各教科等における探究的な学び

新学習指導要領では、学習の基盤となる資質・能力や現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を育成するために、教科等横断的な学習を充実させることが求められている。

各教科においては、「探究」の名称が付されていない科目等についても、それぞれの内容項目に応じて、探究的な活動は取り入れられるべきものである。各教科における探究的な学びには、探究のプロセス全体を通して資質・能力を育成するだけでなく、「整理・分析」や「まとめ・表現」など探究のプロセスの一部に焦点を当てることも考えられる。この際、「考えるための技法」を効果的に活用することが重要である。

家庭科においては、それぞれの内容項目に応じて、生活の課題を発見し、家庭や地域で実践するという視点から、次の図のような過程で学習を進めることで、探究的な要素を取り入れた、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図ることが重要である。



また、学習を進めていく上で、「生活の課題発見」や「解決方法の検討と計画」、「課題解決に向けた実践活動」、「実践活動の評価・改善」というそれぞれの学びの過程において、次のような課題が考えられることから、これらの課題の解決に向けた指導の工夫と改善が必要となる。

学びの過程	課題	課題を解決するための効果的な指導例
生活の課題発見	自己の家庭生活から問題を見いだせない生徒が多い。	生活に関するアンケートの実施や、既製品の自立チェックシート等を活用し、生徒自身の生活の実態を把握させ、課題を見いださせるなどの工夫。
解決方法の検討と計画	教員一人で多くの生徒を担当しているため、題目設定は適切か、綿密な実施計画を作成しているかなど、全生徒に適切な指導・助言をすることは難しい。	生徒自身が設定した課題について、グループで共有し、題目設定が適切かなどについて他者と検討させるなどの工夫。
課題解決に向けた実践活動	自己の生活から見いだした課題であっても、問題意識の低さから効果的な実践とはならず、生活の改善までに至らない。	生徒自身の取組について、1人1分30秒程度の動画を作成させ、小グループ内で発表させることで、他の生徒の実践を参考にさせるなどの工夫。
実践活動の評価・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表時間の確保が難しく、時間の都合上、改善策を検討するまでに至らない。</li> <li>・ICT機器を活用して発表することが、目的になり、課題解決ができたとは言いがたいものがある。</li> </ul>	授業内でICT機器を活用した実践報告会を実施し、他の生徒の発表を参考に自身の実践を振り返る時間を設けるなどの工夫。 パワーポイントの出来映えなどが評価の全てとならないよう、評価規準を明確にするなどの工夫。

## (2) 教科等横断的な視点を意識した年間指導計画の作成

年間指導計画の作成に当たっては、単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るよう工夫・改善を図る必要がある。その際には、生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、知識を相互に関連付けてより深く理解させるとともに、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして解決策を構想し、実践を評価・改善して、新たな課題の解決に向かう過程を重視した学習を充実させるよう留意する。

また、教科等横断的な学習を進める際には、中学校技術・家庭科の学習内容を踏まえた系統的な指導となるよう留意するとともに、高等学校公民科、数学科、理科及び保健体育科等との関連を図り、家庭科の目標に即した調和のとれた指導を行うよう留意する。

次の表は、「家庭基礎」年間指導計画の例である。

教科名		家庭科	科目名	家庭基礎	
科目の目標		生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成する。			
履修学年	1 学年		単 位 数	2 単位	
月	単 元	学 習 内 容	評 価 規 準	評 価 方 法	関 連
4	A 人の一生と家族・家庭及び福祉	(1) 生涯の生活設計 ・グループワークを通して自己と他者を理解する。 ・ライフプランを作成し、自己実現のための目標を考える。	【知】人の一生について、自己と他者、社会との関わりから様々な生き方があることを理解している。 【思】自己の生活について主体的に考え、将来の家庭生活及び職業生活について考察し、生活設計を工夫している。 【主】生涯の生活設計について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。	【知・思】ワークシート 【主】行動観察	
8	C 持続可能な消費生活・環境	(1) 生活における経済の計画 ・自分のライフプランを計画し、一生にかかる費用をまとめ、貯蓄や資産運用について考えをまとめる。	【知】生涯を見通した、生活における経済の管理方法やその重要性について理解している。 【思】ライフステージや社会保障制度と関連付けて考察し、課題を解決する力を身に付けている。 【主】課題の解決に主体的に取り組む、生活の充実、向上を図るために実践しようとしている。	公共◆ 公共の「B 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち」の単元「金融の働き」の学習内容と関連付ける。 【知・思】ワークシート、定期考査 【主】行動観察	
9	D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動 I	(2) 消費行動と意思決定 ・消費者としての正しい情報の収集方法について学び、消費者問題についてグループでまとめ、	【知】消費生活の現状と課題、意思決定や契約の重要性、消費者保護の仕組みを理解し、情報を適切に収集、処理することができる。	情報◆ 情報 I の単元「情報社会の問題解決」の学習内容と関連付ける。	

		詐欺防止のチラシを作成する。	る。	【主】 行動観察	
10		(3) 持続可能なライフスタイルと環境 ・様々な人々と協働し、社会の構築に向け、持続可能なライフスタイルと環境について、課題の解決に主体的に取り組む。	【思】 責任ある消費について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、根拠に基づいて適切に表現するなど課題を解決する力を身に付けている。 【主】 様々な人々と協働し、適切な消費行動をするための意思決定をするための課題の解決に向けて、主体的に取り組もうとしている。	【主】 行動観察	ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動及び総合的な探究の時間の学習内容を関連付ける。 ●「努力を要する状況(C)」と判断される生徒への手立て ◇ICTを活用し、具体的な事例を確認させ、呼びかけるべき点や、注意すべき点とともに確認するなどして、内容が充実したチラシとなるように考えさせる。
11	B 衣食住の生活の自立と設計	(1) 食生活と健康 ・地元食材等を調査し、食糧自給率や食生活の課題について理解し、地産地消を取り入れた調理の実践により、技能を身に付ける。	【知】 食生活の課題や、栄養の特徴、健康や環境に配慮した食生活について理解している。 【思】 献立作成や調理計画調理の実践等で課題を見だし、課題を身に付けている。 【主】 他者と協働し、課題解決に向けて、主体的に取り組もうとしている。	【知・思】 ワークシート、定期考査 【主】 行動観察	
12					
1	D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動Ⅱ	・ホームプロジェクトを実践し、プレゼンテーション資料にまとめ、発表する。	【知】 実施方法について理解している。 【思】 自己に合った課題を設定し、計画、実践、評価、改善を通して課題を解決する力を身に付けている。 【主】 自分自身の身の回りの生活や、地域の生活を向上させるために具体的に実践しようとしている。	【知・思】 レポート、制作物(プレゼンテーション資料) 【主】 行動観察	総探◆

## 2 新学習指導要領における指導と評価の計画例

### (1) 家庭基礎「消費行動と意思決定」の計画例

#### ア 単元の目標

- (ア) 消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう、消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定や契約の重要性、消費者保護の仕組みについて理解するとともに、生活情報を適切に収集整理できる。
- (イ) 自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することや責任ある消費について問題を見いだして課題を設定し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。

(ウ) 課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとする。

### イ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう、消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定や契約の重要性、消費者保護の仕組みについて理解するとともに、生活情報を適切に収集し整理できる。	自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することや責任ある消費について問題を見いだして課題を設定し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。

### ウ 単元の指導と評価の計画（4時間）

時間	ねらい、学習活動	知	思	態
1 【1時間】	事前に公共及び、情報で学習した内容を確認し、ICT端末を活用して様々な消費者問題についてグループごとに調べ、課題を見いだす。また、付箋紙を活用して課題をまとめ表現する。		○	
2～3 【2時間】	消費者保護の仕組みを踏まえ、より簡単に効果的な消費者トラブルの防止策を考察し、ICT端末を活用して地域の高齢者への啓発のために配布するチラシを作成する。	○	○	
4 【1時間】	作成したチラシを基に消費者トラブルの内容と防止策について発表し、相互に理解を深めるとともに、自己評価とまとめを行うことで、理解を深める。	○	○	

総合的な探究の時間や情報と連携した教科等横断的な学習を展開する。



単元末の振り返りシートで見取る。

### エ 学習指導案（1時間目／4時間中）

#### 1 本時の目標

- (1) 消費生活の現状と具体的な消費者問題をまとめ、課題を見いだす。
- (2) 消費者問題防止のチラシ作成に向け、グループで意見を交換し、課題をまとめ、表現する。

#### 2 本時の展開

過程	学習内容	生徒の学習活動	評価	指導上の留意点
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の学習内容及びねらいの確認</li> <li>グループ分け</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前に取り組んだ消費者問題のプリントを確認する。</li> <li>本時のねらいを確認する。</li> <li>各自のICT端末を活用して、グループに分かれる。</li> </ul>	<p>ICT端末の活用 (学習支援ソフトのグループ分けツールを使用)</p>	
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>消費者問題はなぜ起こるのか</li> </ul> <p>ICT端末の活用 (ウェブブラウザ)</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>各自のICT端末を活用して、消費者被害の事例を調べ、ワークシート（次ページ参照）に記入する。</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>グループ内で情報を共有する。</li> </ul>	<p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>消費者問題の原因や背景、特徴を見いだしている。</li> </ul> <p>ICT端末の活用 (学習支援ソフトの付箋機能を使用)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高校生の携帯電話を介した消費者トラブルが増加していることから、情報Ⅰの単元「情報社会の問題解決」の学習内容と関連付けていることを意識させる。</li> </ul>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時のまとめ</li> <li>次時の学習内容の確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各自、被害の原因や背景、特徴などをまとめ、課題を見出し、付箋に書き出す。</li> </ul> <p>【問い】</p> <p>「なぜだまされてしまうのだろうか。」「どうしたら消費者トラブルを防げるか。」</p>	<p>【思考・判断・表現】</p> <p>グループワークを踏まえ、課題と解決の方向性をまとめ、整理し、適切に表現している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習支援ソフトは保存し、ワークシートは提出させる。</li> <li>次回、消費者トラブルの予防や被害時の対処法について考え、消費者被害防止のチラシの作成に取り組むことを理解させる。</li> </ul>

● KJ法を活用し、原因、背景、特徴（年齢、生活状況、商品など）を、キーワードごとに付箋にまとめる。

オ ワークシートの例

(ア) チラシ作成のワークシートの例（2時間目／4時間中）

生徒記入例

家庭基礎

消費者問題防止のチラシを作ろう！

1年 組 番 氏名

消費者問題「 」

①具体的な事例を調べてまとめましょう。  
(技能)

① 具体的な事例を調べてまとめましょう。(技能)  
自分が調べたもの(概要)  
エステの無料クーポンの配布  
「体験無料」「今だけ無料」と「無料」をうたい文句に勧誘する。広告などに掲載している無料クーポン等を利用しようと来店したお客様に対し、「このままではシワになる」などと脅し、高額なコースを勧めるケース。

消費者問題の原因や背景など

～他の人が調べた内容のメモ～

②なぜだまされてしまうのか。  
理由と解決の方向性を考えてみよう。

② なぜだまされてしまうのか、理由と解決の方向性を考えてみよう。(思考・判断・表現)  
【評価Bの解答例】  
・サービスを受けた後なので、断れないと考えてしまうことで、だまされてしまう。当初の情報とは異なる内容であることから、消費生活センターに相談する。  
・他人に相談できるタイミングがないため、だまされたと気付いたときには手遅れになってしまう。その場で契約せず、わからないことは理解できるまで相手に確認するようにする。

C評価の生徒に対する手立て  
国民生活センターや消費生活センターのウェブページにアクセスし、同様の被害にあった場合、どのような解決策がとられているかを調べさせる。さらに、今回の事例に置き換えた場合、適切な解決方法は何かを考えるよう促す。

【評価Aへのポイント】  
学習してきた契約の重要性や消費者保護の仕組みを生かし、問題点について原理・原則に基づき客観的・批判的に分析し、被害にあった場合の具体的な解決策について記載されている。

(イ) 学習した内容を「ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」において探究的な学習に発展させるためのワークシートの例

**「ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」探究学習シート**

過程	課題	課題を解決するための効果的な方法
消費生活における課題・発見		
解決方法の検討と計画		
課題解決に向けた実践活動		
実践活動の評価・改善		

1年( )組 ( )番 氏名( )

## カ 評価問題等

評価問題の例
消費者問題の原因等を踏まえ、高齢者をねらった被害を防ぐためには、どのようなことに取り組む必要があるか、これまでの学習を生かして、あなたの考えを具体的に記入しなさい。
評価の観点（主体的に学習に取り組む態度）
被害が起こる原因を適切に捉え、被害に遭遇しないためにはどのような工夫が必要か。また、被害に遭遇した場合には、どのような対処方法が必要かについて、一連の学習の成果を生かして考察・表現し、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。

キ 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

### 【評価Aの記述の例】

高齢者がこれまで蓄えてきた貯金や年金が、ねらわれることにより、消費者トラブルが多く発生している。そのため、実際にトラブルとなった事例や解決方法について情報を収集し、高齢者に分かりやすいようにイラスト等を活用して啓発チラシを作成し、万が一被害に遭遇した場合には、188番に電話相談できることや、消費生活センターに相談できることなどの具体的な対処方法を伝えていきたい。

#### 【評価Aと判断したポイント】

高齢者をねらった消費者被害が起きている原因等を説明し、被害者とならないための工夫について説明しているだけでなく、実際に被害に遭遇した場合の対処方法について具体例とともに説明している。

### 【評価Bの記述の例】

高齢者をねらった、実際にトラブルとなった事例を収集し、消費者トラブルを未然に防ぐことができるよう啓発チラシを作成し、万が一被害に遭遇した場合には188番に電話相談ができることや、消費生活センターに相談できることなどの具体的な対処方法を伝えていきたい。

#### 【評価Bと判断したポイント】

被害者とならないための工夫について説明するだけでなく、実際に被害に遭遇した時の対処方法について具体例とともに説明している。

### 【評価Cの記述の例】

トラブルを未然に防ぐことができるよう啓発チラシを作成し、被害者とならないよう伝えていきたい。

#### 【評価Cと判断したポイント】

生徒自身の学びに繋がったことは読み取れるが、チラシの内容や対象方法等に関する具体的な記述が見られない。

# Topic

## 家庭科における「関係機関と連携した消費者教育・金融教育」

### ◆ 消費者教育・金融教育に関する関係諸機関との連携等について

令和4年（2022年）4月から学年進行で実施される学習指導要領において、民法改正による成年年齢が18歳に引き下げられることを踏まえ、生徒が自立した消費者となるよう、家庭科において、「持続可能な消費生活・環境」の学習内容が新たに位置付けられた。

具体的には、家計管理について理解することや、生涯を見通した生活における経済の管理及び計画の重要性について考察することとしており、預貯金、民間保険、株式投資信託等の基本的な金融商品の特徴や、資産形成の視点にも触れるなど、実践的・体験的な学習活動を通して消費者市民社会の担い手として、自覚をもった責任ある行動ができることが求められている。

こうしたことから、家庭科においては、地域や関係機関等との連携・交流を通じた実践的な学習活動を取り入れるとともに、外部人材を活用するなどの工夫に努めることが求められている。

### 消費者教育及び金融教育で連携が可能な関係諸機関一覧

機関名	取組の概要	機関名	取組の概要
一般社団法人 北海道消費者協会	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学校訪問講座」（生徒対象）</li> <li>「教員サポートセミナー」</li> <li>「消費者教育支援セミナー」（教員対象）※例年1月開催</li> </ul>	アサヒ生命保険(株)	<ul style="list-style-type: none"> <li>「探究型金融出張授業」（生徒対象）</li> <li>※職員による出張授業</li> </ul>
経済産業省 北海道経済産業局	<ul style="list-style-type: none"> <li>「高校生向け消費者教育」</li> <li>※職員によるオンライン講座</li> </ul>	第一生命保険(株)	<ul style="list-style-type: none"> <li>「消費者教育・金融保険教材(ライザルグ-Ⅲ)Ⅲ」を使用した出張授業</li> <li>※札幌市内の学校対象</li> </ul>
(株)北洋銀行	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国銀行協会の教材及び活用の紹介等</li> <li>金融教育講座（教員対象）</li> <li>※8月実施済</li> </ul>	SMBCコンシューマー ファイナンス(株)	<ul style="list-style-type: none"> <li>金融に関する出張授業の実施（生徒対象）</li> <li>金融に関する教材の提供（教員対象）等</li> </ul>
(株)北海道銀行	<ul style="list-style-type: none"> <li>「金融教育『出前講座』」</li> <li>※石狩管内の学校対象、オンライン授業</li> </ul>	ろうきん (北海道労働金庫)	<ul style="list-style-type: none"> <li>金融に関する出張授業の実施（生徒対象）</li> <li>職場体験等の職場訪問の受入</li> <li>※小・中での実施も可能</li> </ul>
日本郵便(株) 北海道支社	<ul style="list-style-type: none"> <li>「金融教育に関する授業」（生徒対象）</li> <li>※職員による出張授業、オンライン授業</li> <li>「金融に関するセミナー」（教員対象）</li> </ul>		

外部人材との事前の打ち合わせにおいては、次の事項について共通理解を図ること。

#### 事前打ち合わせ

- 学習指導要領に基づいた授業の目標、指導内容
- 授業の導入、展開、終末の各段階の指導内容や指導方法、時間配分
- 外部人材が直接指導する場面での指導内容と担当教員等とのかかわり方
- 児童生徒の発達の段階や特別な支援を要する児童生徒への配慮

#### 事後打ち合わせ

- 授業の目標や指導内容に基づいた評価
- 指導内容や指導方法等の改善点

#### その他

- 特定の事柄を強調しすぎたり、一面的な見解を十分な配慮なく取り上げたりするなど、特定の見方や考え方に偏った内容にならない指導
- 政治や宗教について特定の政党や宗派に偏った思想、題材によっているなど不公平な立場でない指導
- 教育活動を通して知り得た児童生徒や教職員の個人情報への守秘
- 学校の教育活動の信用を損なわない言動
- 市町村教育委員会及び学校の指示の遵守

### ◆ 企業との連携の例



令和4年（2022年）2月19日、20日に札幌市内公立高4校と企業が連携し、「高校生金融学習会」が実施された。参加生徒は企業による金融授業を受講し学習した内容を踏まえ、金融教育の重要性について資料をまとめ、一般参加者に向けて発表した。

# Topic

## 家庭科における「家計管理について考える出前授業」

### ◆ 企業と連携した実践(ファイナンシャルプランアドバイザーによる授業)

家庭科においては、「家庭基礎」及び「家庭総合」のいずれの科目においても、小学校・中学校・高等学校の系統性や成年年齢の引き下げを踏まえ、「C 持続可能な消費生活・環境」において、契約の重要性や消費者保護の仕組みに関する内容を充実するなど、消費者被害の未然防止に資する内容の充実を図ることが求められている。

家庭基礎 (2単位)	家庭総合 (4単位)
C 持続可能な消費生活・環境 (1) 生活における経済の計画 ・家計管理についての理解 ・リスクを想定し、不測の事態に備えた対応についての理解 (2) 消費行動と意思決定 ・消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう契約の重要性についての理解 ・消費者保護の仕組みについての理解 (3) 持続可能なライフスタイルと環境	C 持続可能な消費生活・環境 (1) 生活における経済の計画 ・不測の事態に備えたリスク管理に関する内容の充実 (2) 消費行動と意思決定 ・消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう契約の重要性についての理解 ・消費者保護の仕組みについての理解 ・消費生活に関する演習を取り入れることを明記 (3) 持続可能なライフスタイルと環境

本事例は生命保険会社のファイナンシャルプランアドバイザーと連携し、生徒が生涯を見通しながら消費行動における意思決定や契約の重要性、消費者保護の仕組みについて理解することや、生活情報を適切に収集・整理できるようになることをねらいとした授業実践である。

#### ○ 実践の流れ

#### 【事前学習】

アニメのキャラクターをモチーフに、理想の人生を実現するために必要な事柄やライフイベントについて考察するとともに、具体的な費用についても考察する。

#### ワーク：のび太のライフデザイン (理想の状態) を実現するために

1. やりたいこと・イベントを具体的に書き出してみよう。
2. それぞれ、いくらお金がかかるか予想してみよう。

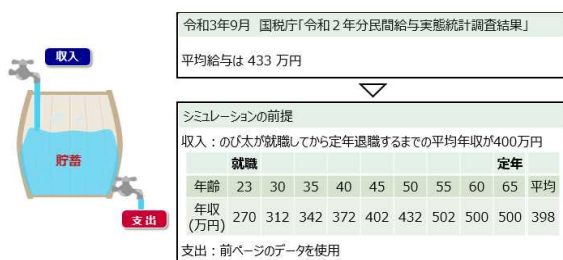
<b>10代</b> しずかちゃんと一緒に、大学生活を楽しんでいる。車の免許をとって、しずかちゃんと一緒に各地に行く。	イベント _____ _____ _____
<b>20代</b> しずかちゃんと結婚している。しずかちゃんに似たかわいい子どもが生まれている。	イベント _____ _____ _____
合計	

生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について、ライフステージや社会保障制度などと関連付けて考察する。

#### 【1 時間目】

事前学習をもとに、ライフプランのシミュレーションを行う。ライフデザインを実現させるためには、年収に頼るだけではなく、「住宅ローン減税制度」を活用することや、預貯金の一部を資産運用することなどの方法があることを理解する。

#### のび太の夢を日本の平均年収で叶えられるのか検証



収入の範囲内でしか原則お金は使えない

#### 【2 時間目】

ライフデザイン実現のためにはどのような場面で、どのような準備が必要か、「お金にまつわる4つの視点」をもとに、特に、「借りる」、「増やす」の視点に焦点を当てて考察し表現する。

#### 【ワークシート例】

ライフデザインを実現するためにはどのような場面で、どのような準備が必要でしょうか。次の「お金にまつわる4つの視点」に当てはまる方法や事柄を考えてみよう。

#### 【お金にまつわる4つの視点】

- 1 お金を借りる
- 2 消費者トラブルから守る
- 3 様々なリスクに備える
- 4 お金を増やす